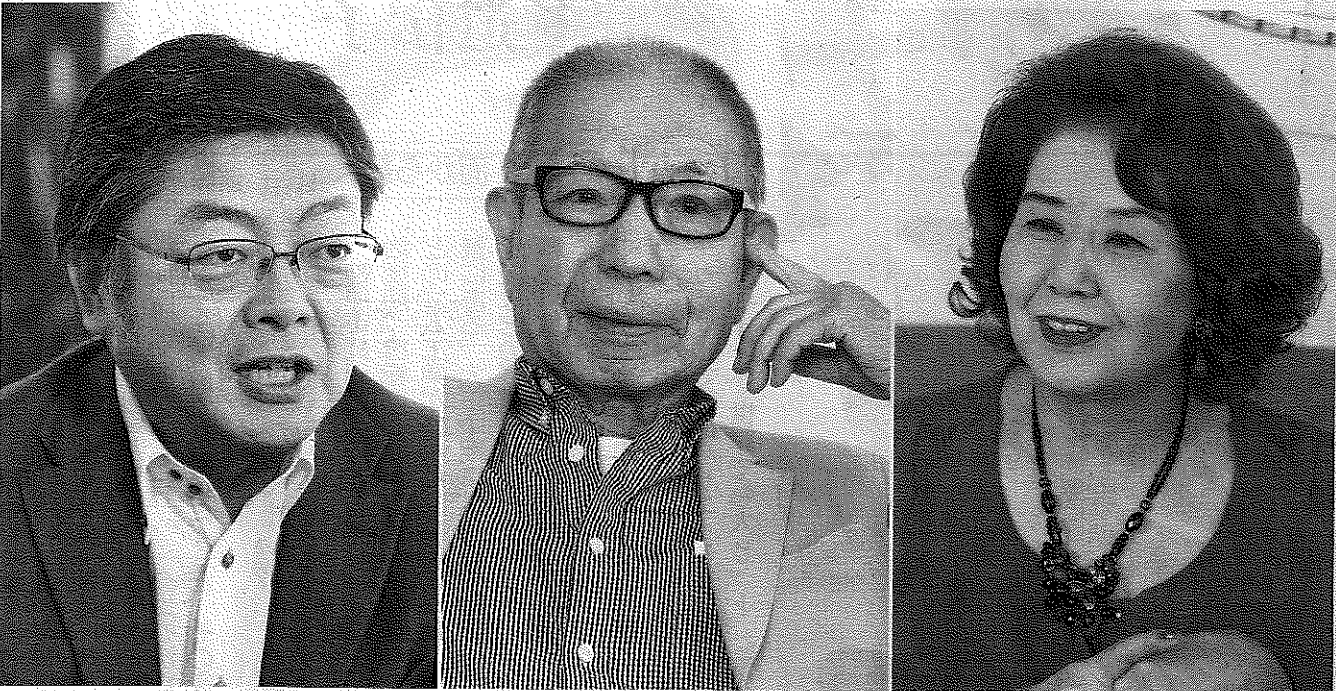


10月19日
産経新聞

かたやま・ひろこ ソプラノ歌手。長く関西二期会で活躍し、多くのタイトル・ロールを歌った。現在は宝塚歌劇団で声楽指導を行っている

くりやま・まさよし 大正15年東京生まれ。俳優座演劇研究所所員として演劇の表現手法を研究。その後、オペラ演出に転じる。国立音楽大学名誉教授

いのうえ・としのり バリトン歌手。大阪音楽大学大学院修了後、関西歌劇団に入団。現在同歌劇団理事長、同志社女子大学教授を務めている



井上敏典

栗山昌良

片山弘子

オペラ演出家で文化功労者の栗山昌良のキャリアは日本のオペラ史の発展とも重なる。関西二期会の第1回オペラ公演でも演出を手がけるなど関西との縁も深く、関西在住の多くの歌手も栗山を師と仰ぐ。栗山を囲み、ソプラノ歌手の片山弘子と関西歌劇団理事長でバリトン歌手の井上敏典に、栗山の指導法を話してもらった。
(安田奈緒美)

関西のオペラ文化を語る

演出家、栗山昌良と語る

栗山 あなたとの出会いは何でしたかね。
片山 昭和50年、間宮芳生さんの「昔噺 人質太郎兵衛」でした。「鬼の栗山」という話を聞いてヒヤヒヤしながら通いましたが、なぜか一度も叱られなかった。日本物でしたから、小さい頃から日本舞踊などを習っていたのが良かったかな。ところが、先生に見てもらった2度目、「フィガロの結婚」で伯爵夫人を演じた時、前奏が鳴って舞台中央に進み出た瞬間、歌う前に「どんな歩き方してるんだ」と怒鳴られました。
井上 僕も大阪音楽大学のザ・カレッジ・オペラハウスのオーデイションを受けてフィガロを歌うことになったのが栗山先生との出会い。周囲にどうしたら叱られないで済むかを聞き回ったところ、「とにかく動け」と言われたので稽古初日に動きまわったら先生に失笑されましたね。
栗山 すべての聴衆のためにあるんです。藤原歌劇団の創始者、藤原義江さんに記者会見で「新劇の若手に演出を頼んだら理屈っぽくて困る」と嫌みを言われたこともありますが、歌手は音大であれただけ歌を練習しているのに芝居はどれだ

芸術の土壌 制作力で生かせ

井上 僕ら、栗山学校の生徒はボーズから所作、衣装さばきまで先生に学びました。そのことを若い世代にもしっかり伝えていこうと思っています。
栗山 僕から言わせるとあれだけ歌える能力があるのだから演劇の表現もできるはずなんです。
片山 以前、先生が男性歌手に森繁久彌さんの映画、舞台などの演劇芸術を見て「いいと言われているのが心に残っています。他ジャンルといえば今、私は宝塚歌劇団に指導に行っていますが、宝塚はすごく活気づいていますね。
栗山 宝塚も歌舞伎も劇場が賑わっている。芸術、劇場を生かすも殺すもプロデューサーの仕事です。関西でも兵庫県立芸術文化センターで同じ演目8回オペラやって満席でしょ。帝国ホテル大阪でも食事付きのオペラのチケット3万円が売り切れる。出演者は日本人だけなのに。関西にはちゃんと土壌はある。お客様も満足ですよ。
井上 今年、関西歌劇団の公演で東京の藤原歌劇団からゴーシャスなセットを借りて上演したら公演1カ月前に完売しました。
栗山 よくやったね。思い切ったね。劇場は生き物。そして繰り返すようにだけと芸術、劇場を生かすも殺すもプロデューサーの仕事。帝国ホテル大阪でも11月、48人の歌手が集まって歌ってくれるっていうんだからたいしたもの。あとは中身がどうなるかね。